

千代田化工建設
グループCSR報告書

2014



千代田化工建設 グループCSR報告書2014

目次

会社概要	1
編集方針	2
トップメッセージ	3
特集： 「時代を捉え、時代を拓く」 千代田グループの事業	
特集1 パパアニューギニア LNGプロジェクト	5
特集2 SPERA水素 川崎市と新しい公益を創る	6
国内外グループ会社の活動紹介	7
千代田グループのCSR	9
CSRビジョンごとの活動紹介	
CSR vision 1 信頼される企業	11
CSR vision 2 環境への取り組み	12
CSR vision 3 事業を通じた社会への貢献	13
CSR vision 4 人の尊重	15
CSR vision 5 公明正大な企業運営	17
第三者意見	18

会社概要

社名：
千代田化工建設株式会社
(CHIYODA CORPORATION)

所在地：
横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号
みなとみらいブランドセントラルタワー

主なオフィス：
千代田化工建設グローバル本社(横浜市西区)、
子安オフィス・リサーチパーク(横浜市神奈川区)、
東京オフィス(東京都千代田区)

資本金：
433億96百万円(2014年3月31日現在)

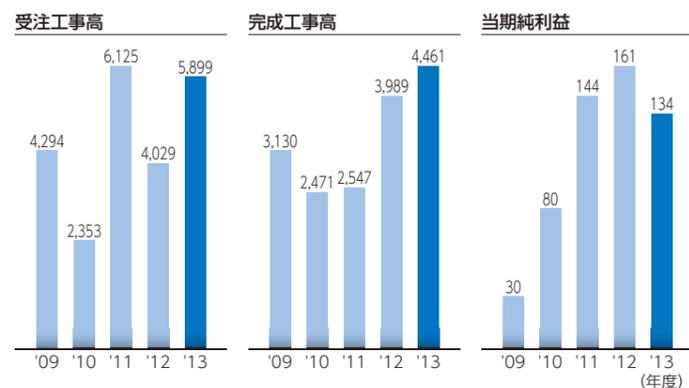
主な事業内容：
エネルギー、化学、医薬品、バイオ、環境分野などの各種プラント・
施設に関するコンサルティング、計画、設計、調達、建設、試運転、
運転・保安全管理コンサルティング/トレーニング、
研究開発・技術サービス、プロジェクトマネジメント

主要なグループ会社：
連結対象29社、持分法適用関連会社5社

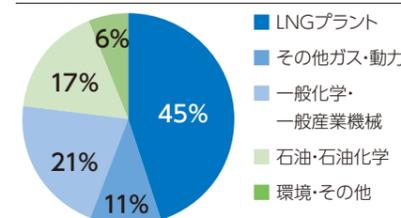
従業員数：
6,062名(千代田グループ)

URL：<http://www.chiyoda-corp.com/>

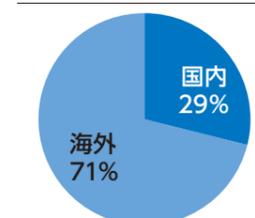
連結業績(億円)



分野別売上高構成比(2013年度)



地域別売上高比率(2013年度)



【ご意見・ご感想をお寄せください】

本報告書を通じて千代田グループのCSR活動をご理解いただき、ステークホルダーの皆様との対話を深めていきたいと考えています。当社Webサイト内「お問い合わせ」ページのフォームより「CSR関係」をお選びの上、皆様の率直なご意見やご感想をぜひお寄せください。
(コンプライアンス・CSRユニット)

編集方針

当社グループのCSR活動は、WebサイトとグループCSR報告書で報告しています。

CSR活動報告の方針

Webサイトでは、CSR全般に関連する詳細情報を網羅的に紹介しています。

グループCSR報告書では、活動のハイライトを報告しています。内容は国内外グループ会社のCSR責任者と協力して、当社グループの経営理念、CSRビジョンの観点から絞り込みを行い、グループCSR連絡会での審議を重ねて決定されたものです。



Webサイト「CSRへの取り組み」

<http://www.chiyoda-corp.com/csr/index.html>



参考：「千代田グループCSRハンドブック」

千代田グループで勤務する従業員が日々の業務において、社会的責任を念頭に、いかに振る舞うべきかの拠り所となる千代田グループ「経営理念」「CSRビジョン」「行動規範」「行動の手引き」などの基本方針を編集したものです。千代田グループのCSR活動の源泉ともいえるべきもので、従業員全員に配布しています。Webサイトからダウンロード可能です。



グループCSR報告書の構成

報告書では、左記の手順で選定された2013年度の活動ハイライトを、「トップメッセージ」「特集」「国内外グループ会社の活動紹介」「CSRビジョンごとの活動紹介」「第三者意見」の構成にて報告しています。

特に、グループCSR報告書2013の第三者意見を踏まえて「人権」「腐敗防止」に関する取り組みの報告を「CSR vision 5」に拡充しました。CSR活動をより良いものとするために、有識者から客観的な評価・助言をいただいています。

報告の対象範囲

千代田グループ35社(千代田化工建設および、連結子会社・持分法適用関連会社など34社)のCSR活動を、報告の対象範囲としています。特定の会社による活動を紹介する場合は、その旨を記載しています。

報告の対象期間および発行

対象期間：2013年度(特に注記をしていない限り、2013年4月1日～2014年3月31日が対象)
発行月：2014年8月

参考にしたガイドライン・規範等

「GRI G4ガイドライン」「環境報告ガイドライン2012年版(環境省)」「ISO26000」「国連グローバル・コンパクト」を参考にしています。

発行部署

コンプライアンス・CSRユニット/グループCSR連絡会

IR関連資料



これらの資料は当社Webサイトからダウンロードできます。

HOME>IR情報

<http://www.chiyoda-corp.com/ir/index.html>

HOME>会社情報>コーポレートガバナンス

<http://www.chiyoda-corp.com/company/corporate-governance.html>



トップメッセージ 千代田グループの経営理念の実現に向けて

経営理念

総合エンジニアリング企業として、
英知を結集し研鑽された技術を駆使して
エネルギーと環境の調和を目指して
事業の充実を図り、
持続可能な社会の発展に貢献する。

エンジニアリング企業としての社会的使命

2013年の社長就任にあたり、不確かな時代を見据えて、これからの時代にふさわしいエンジニアリング企業への変革を決意しました。新たな中期経営計画では、経営理念にも通じる「エンジニアリング企業は時代やその国に必要なインフラを、最先端の技術を駆使して提供する社会的な使命を託されている。そしてエネルギーと環境の調和の理念の基で持続可能な社会の発展に貢献する」ことを社会的使命とし、「時代を捉え、時代を拓く」という言葉を掲げ、経営の舵取りを行ってきました。

中期経営計画の着実なステップ

中期経営計画において、千代田グループの10年後のあるべき姿を、①事業領域が多様化し、ステークホルダーの満足度を高めている、②新興国・途上国を含め世界各国で地域社会への貢献を深化させている、③事業遂行のグローバル分担体制の定着している企業グループと定めました。

一年を経過した主な成果としては、① LNG分野で、パプアニューギニアでの6,500万時間(2014年5月末)無事故無災害記録達成とLNGプラントの完成、北米でFreeport LNGとCameron LNGという2件の大型LNGプロジェクトの新規受注を獲得しました。新しい事業としては、英国エクソダス社との資本提携によるオフショア・アップストリーム分野進出を図りました。また、当社が世界に先駆けて開発した触媒・プロセスで、大量の水素を常温常圧で貯蔵・輸送する水素サプライチェーンを構築し、水素社会の実現を目指す動きも進んでいます。こうした取り組みに対して、顧客はじめステークホルダーの皆様からは、高い評価をいただいています。

② 新興国・途上国の地域社会への貢献としては、事業を展開する国・地域における雇用開発や人材育成、日本での研修生の受け入れなどを進めています。

③ グローバル分担体制の確立のために、必須となる人事や育成を行う新会社、千代田ビジネスソリューションズを2014年4月に設立しました。中期経営計画の実現の要であり、エンジニアリング企業で最も重要な財産である多様な人材の確保と育成を強化します。

また、グローバル化に伴うさまざまなリスクへの対応のために、2013年に専任組織「危機管理ユニット」を設置し、その活動を強化させてきました。

グローバル規範の尊重・ コンプライアンスの徹底

グループ企業内メンバーのみならず、事業地域もビジネスパートナーも、ますます多様化しています。ここで必要とされるのは、誰もが納得できるフェアな規範です。その意味で、国連グローバル・コンパクト*の人権・労働・環境・腐敗防止に関する精神を引き続き支持します。

全社員に向けてこの精神を日々の活動・業務に反映することの大切さを、今後も継続して呼びかけていきます。また、パートナー、取引先などにも国連グローバル・コンパクトの精神を反映している当社グループの行動規範を理解していただき、遵守に努めていただくよう働きかけていきます。

特に、国内外の法規・国際的取り決めの遵守および人権の尊重、ハラスメント防止・腐敗防止・情報セキュリティなどに関するコンプライアンスについては、グループ企業活動全ての透明性をさらに向上するよう注力していきます。当社グループ全体でコンプライアンスの遵守、意識の向上を図るため、従来の運営体制を拡充し、経営会議直轄で代表役員を長とする「コンプライアンス委員会」と「グループコンプライアンス連絡会」を新設しました。



千代田グループの社会的責任(CSR)の実践

時代の要請を的確に把握し、貧困、環境、資源確保など、グローバルな課題解決に求められる価値をエンジニアリングで創造し提供することこそが、社会的使命の達成と経営理念の実現につながると考えています。

そのためには、「温かい気持ちを表現するほほえみ(スマイル)と相手の尊重(リスペクト)」をコミュニケーションの基本姿勢とし、顧客、地域社会をはじめとする多様なステークホルダーと丁寧なコミュニケーションをとることが重要です。常にステークホルダーの声に謙虚に耳を傾け、事業活動を通じて社会に貢献していくことがCSR実践の第一歩であると考え、今後も社会から信頼される企業を目指し、積極的にCSRに取り組んでいきます。

2014年8月

代表取締役社長 澁谷省吾

*国連グローバル・コンパクト：企業が責任ある創造的なリーダーシップを発揮することによって、社会の良き一員として行動し、持続可能な成長を実現するためのグローバルな枠組みづくりに参加する自発的な取り組み。人権・労働・環境・腐敗防止に関する10原則を軸としている。

特集：「時代を捉え、時代を拓く」千代田グループの事業

特集1 パプアニューギニア LNGプロジェクト



LNG生産プラントと出荷桟橋

した労働安全環境プログラムを導入しました。特にマラリア対策には重点をおき、防虫ネットと防虫仕様の作業服支給、3万食/日を提供する食事の品質管理、クリニックの設置、国際緊急医療救助サービスの活用等を実施しました。

プロジェクトの概要

千代田化工建設は日揮との共同企業体として、パプアニューギニアのポートモレスビーでエクソンモービル社の子会社であるエクソンモービルPNG社が主導するPNG LNGプロジェクトの建設業務を受注しました。PNG LNGプロジェクトはガス生産設備、ガス処理設備、オンショア/オフショアパイプラインと天然ガス液化設備を含んだ総合開発プロジェクトです。

本プロジェクトによる同国経済への影響は大きく、GDPの成長を後押しすることが期待されています。また、生産されるLNGの約半分は日本に供給されることから、日本の長期安定的なエネルギー資源の確保に貢献できるものと期待されています。LNGプラント設備の工事遂行には、産業インフラやロジスティックスの未整備といった現地事情等による各種困難がありましたが、それらを克服して、予定よりも早い工事完成を達成しています。

世界最高水準クラスの安全工事遂行

LNGプラント工事では、無事故無災害に傾注し、2012年3月から2014年5月末時点で6,500万時間という世界最高水準の無事故無災害記録を達成しました。千代田化工建設/日揮ジョイントベンチャー(CJ JV)は現場にて高い安全意識を根づかせるため、エクソンモービル社と緊密に連携し、いくつかの安全対策を導入しています。

ピーク時には11,000人以上が就労するLNGプラント工事での労働者の健康維持管理が重要となるため、充実



近隣住民が働くキッチン



倉庫・キッチンの検査を毎週実施

環境への取り組み

PNG LNGプロジェクトでは、自然が多く残るパプアニューギニアの環境への配慮から、高いレベルの環境管理が求められました。

同国の環境に対する要求を満たす運営方針の選定に加えて、限られたごみ処理設備しかないことから、包括的な廃棄物管理計画を立てて、現場敷地内での処理を行いました。具体的には破砕・圧縮によりLNGプラントから出るごみの量を半減させています。一方、資源の再利用にも取り組み、その一環として梱包用に使用した木材をコミュニティセンターなどの建設材として地域に配布しました。



近隣住民への使用済み木材の配布



使用済み木材を手にする近隣住民

地域社会への貢献

LNGプラント工事では、LNGプラントの建設中に近隣の4村を中心に約2,500名を現地採用しました。さらに現地の若手エンジニア9名を千代田化工建設本社、機器製作会社、建設現場でトレーニングし育成しました。

また、パプアニューギニアに施工技術のためのトレーニング施設を設立して、現地の人々にさまざまなトレーニングプログラムを提供しています。

現場サイト内の警備および食事ケータリングサービスでは、地元地権者により設立された会社と専



職業訓練校での修了証を手にする現地採用者

門会社が共同で運営を行いました。さらに現場サイトで使用する乗用車、現場事務所用家具、備品は可能な限り現地企業経由で購入し、通勤バス、現場内売店、床屋の運営は地元地権者に委託するなどして、雇用の創造と地域ビジネスの活性化に貢献しています。

特集2 SPERA水素^{*} 川崎市と新しい公益を創る

2014年3月25日、テレビ朝日 報道ステーションで、「100年後を見据えて…変貌する京浜工業地帯」と題し、15分ほどの特集が組まれました。今から100年前に浅野セメント創業者の浅野総一郎氏が埋立事業を開始し、川崎臨海部がその中心となり、日本の経済成長を支えました。そして100年経った今も、浅野氏のDNAは脈々と引き継がれ、将来を見据えて、京浜工業地帯を形成する企業群、それをバックアップする川崎市が水素供給ネットワークに挑戦するという内容でした。その中核技術として当社のSPERA水素技術が取り上げられました。

川崎市と当社は、2013年6月に水素社会実現に向けた包括協定を締結しました。川崎臨海部という場所で、第1号の水素供給事業を計画すると発表したことで、多くの方に当社の取り組み姿勢、事業の実現性を認識していただけたと考えています。同年9月には、内閣府に国家戦略特区を申請し、川崎臨海部企業群と水素ネットワーク協議会を年度内に3回にわたり開催するなど、着実に進展しています。

当社が取り組む水素供給事業は、CSR活動の本質である「本業を通じて社会貢献する」こと。また行政を含むさまざまなステークホルダーと一緒に公益事業を創りあげていくという、とてもユニークな試みです。引き続き自信と誇りをもって、この事業の立ち上げに邁進していきます。



川崎国際環境技術展2014 メッセージボード



川崎市との調印式
左：千代田化工建設代表取締役社長 澁谷 省吉
中央：横浜国立大学大学院工学研究院 グリーン水素研究センター センター長 特任教授 太田 健一郎氏
右：川崎市長 阿部 孝夫氏(当時)

^{*}SPERAはラテン語で「希望せよ」という意味

国内外グループ会社の活動紹介



生ごみコンポスター

エル・アンド・ティー・千代田リミテッド(L&TC) <http://www.lntchiyoda.com/> 環境配慮型ビルへオフィスを移転

L&TCは、ヴァードラ市のB.P. Estateにあったオフィスの老朽化が進んで構造的に弱くなり、従業員と設備の安全が懸念されたため、2014年1月にオフィスをナレッジシティへ移転することを決定しました。

新しいオフィスのあるナレッジシティは、CO₂を排出量以上に吸収しようとするカーボンポジティブに取り組んでいます。エリアには草木が多く、小さな池にはカモがすみついています。水は雨水を貯め、造園などには下水の処理水を再利用するなど、節水に取り組んでいます。さらに、廃棄物のゼロ化を達成し、外部の照明には太陽光発電による電力を利用しています。

千代田フィリピン・コーポレーション(CPh) <http://www.chiyodaphil.com.ph/> 小学生向けの「Support(支援する), Share(分かち合う) and Supply(与える)」

CPhは社会福祉の推進に力を入れており、2013年には小学生に楽しんで教育を受けてもらうことを目的とした「Support, Share and Supply」プログラムを通じて、Amado T. Reyes小学校の生徒にカバンや文具等を寄付しました。この取り組みは、学びたいのに最低限の道具が持てない子どもたちに手を差し伸べることを目的としています。

ほぼ毎年行われるこの取り組みは、経営陣も全面的に協力しており、社内のみならず、千代田グループ会社にも鉛筆やメモ帳、塗り絵本と色鉛筆、ボールペン、カバン等の寄付の呼びかけを行っています。



千代田システムテクノロジーズ株式会社(CST) <http://www.cst.chiyoda.co.jp/> EPMユーザーセミナー開催

近年、プロジェクトの大規模化に伴い、ジョイントベンチャー形式など複雑な形でのプロジェクトの遂行が求められ、状況を把握するためのプロジェクトの見える化が大きな課題になっています。CSTでは、このような産業界のニーズに対応すべく、Primaveraというプロジェクト管理ツールをベースに、お客様の「プロジェクトの見える化」のサポートを行っています。毎年実施しているユーザー対象セミナーは、多くのお客様からご好評をいただいております。2013年度のセミナーでは「グローバル化の中での競争力あるシステムづくり」をテーマとして国際社会をリードしているパッケージを活用したシステムづくりとソリューションを紹介しました。



千代田シンガポール・プライベート・リミテッド(CSL) <http://www.chiyoda.com.sg/> 42回目のアニュアルディナー&ダンスパーティーの開催

シンガポールのEPC業界を代表するCSLでは、「マンボ・ジャンボ」と呼ぶ従業員を労うためのディナーとダンスのパーティーを毎年開催しています。このパーティーの参加者への記念品として、特別にデザインされたカップをART@Mettaから450個購入しました。メッタ福祉協会が運営するART@Mettaでは、手工芸品を販売してその売上を障がい者に寄付しています。CSLは常に地域社会への貢献を重視しており、小さな社会貢献ですが、障がい者のための確実な支援につながっています。



アローヘッド・インターナショナル株式会社(AIC) <http://www.arrowhead.co.jp/> ユニセフ外国コイン募金活動の実施

AICは千代田グループに代わって2013年11月25日~12月10日に、ユニセフ(国際連合児童基金)に協力して「外国コイン募金活動」を行いました。社員の机の中に眠っているコインを集め、貧困に苦しむ開発途上国の子どもたちの命を救い、教育の機会を提供し、若者が夢と希望を持って社会に参加できるように役立てる募金活動です。今回は外国コイン、紙幣あわせて46kg、金額にして1,000ドルを超える募金が集まりました。今後もこのような社会貢献を継続する予定です。



千代田アルマナ・エンジニアリング・エルエルシー(Chiyoda Alman) <http://www.chiyoda-almana.com/> ハイエン台風の被災者支援活動

Chiyoda Almanは、2013年11月に発生し、フィリピン諸島に甚大な被害をもたらしたハイエン台風の被災者支援のために寄付活動を行いました。Chiyoda Almanには多数のフィリピン人が勤務しており、被災者への哀悼と支援のために行われた従業員による寄付活動では、合計250,000フィリピンペソ(約55万円)が集まり、全額をNPO団体のABS-CBN Foundation, Inc. (Sagip Kapamilya)へ寄付しました。この活動を通じて、社会とのつながりと貢献の大切さを再認識しました。(P13にも関連記事を掲載)



寄付証明書



千代田工商株式会社(CKS) <http://www.cks-ykh.co.jp/> 産廃処分時のマニフェストを100%電子化

日本で産業廃棄物を処分するときに発行するマニフェストには、紙版と電子版(電子マニフェスト)があり、政府は電子化を推進しています。CKSはマニフェストの電子化を推進し、2013年度は100%を達成しました。CKSが排出事業者として産業廃棄物を処分する現場は約40カ所、契約件数は約150件、マニフェスト発行件数は約600件です。社内の品質保証部にて、全案件(ジョブ)の内容を確認して現場への指導および契約の指導を行い、現場所員の協力を得て達成できました。

千代田タイランド・リミテッド(CTL) <http://www.chiyoda.com/th/> 大学、地方自治体、地域社会と一体となった地域開発

CTLは、2013年5月4日~6日にCSR活動としてタイの地方の小学校を支援するバンコク大学ワークキャンプ(BUWC)の卒業生の取り組みに初めて参加しました。BUWCはこの活動を30年以上、毎年行っています。また、プリーラム県(タイ北東部)の学校にバレーボール場と貯水タンクの建設費を寄付しました。建設はCTLとBUWC、地方自治体、地域住民とが一体となって行いました。また、椅子とテーブルの寄付も行いました。



千代田テクノエース株式会社(CTA) <http://www.cta.chiyoda.co.jp/> インターフェックスジャパン2013に出展

CTAは、医薬品・化粧品などを製造・研究開発するためのあらゆる機器・システム・技術が一堂に会する世界有数の技術展「インターフェックスジャパン2013」に千代田化工建設の医薬品プロジェクトセクションと共同で出展しました。千代田グループの医薬品業界への取り組みや技術力を発信しています。千代田グループのブースには製薬会社を中心に約800人の方が来場され、医薬品の発展と貢献に向けた積極的な意見交換や情報収集を行うことができました。



千代田マレーシア・センドリアン・ベルハダ(CMSB) <http://www.chiyoda.com.my/> 献血キャンペーンを実施

CMSBではCSR活動の一環として、2013年6月5日にオフィスが入居しているビルのロビーで献血キャンペーンを実施しました。従業員にボランティア活動に参加する場を提供するとともに、献血の重要性と必要性をマレーシアの人々に訴えるもので、長期的には献血を促す効果があると考えています。また、他の民間団体でも献血キャンペーンが行われ、血液バンクが年間を通じて十分な血液を確保できるようになることを願っています。

千代田グループのCSR

私たちの果たすべき使命 千代田グループ経営理念

総合エンジニアリング企業として、
英知を結集し研鑽された技術を駆使して
エネルギーと環境の調和を目指して事業の充実を図り、
持続可能な社会の発展に貢献する。

私たちの共有する価値観 CSR vision

私たち千代田グループは総合エンジニアリング企業として、事業の推進により社会の持続的発展に寄与することはもとより、以下を継続的に推進することにより企業価値を高め、全てのステークホルダーから信頼と共感を得る企業であり続けるよう努めます。

<p>CSR vision 1 信頼される企業 世界トップクラスの技術と知見の提供により、お客様をはじめ取引先から信頼され続ける企業となるよう努めます。</p>
<p>CSR vision 2 環境への取組 研鑽された技術を駆使して、地球環境と、経済・社会活動の調和を図り、社会にとってかけがえのない企業であり続けるよう努めます。</p>
<p>CSR vision 3 事業を通じた社会への貢献 国内・海外のエンジニアリング事業の遂行を通じ、人材育成、技術移転、環境保護等地域社会への貢献に努めます。</p>
<p>CSR vision 4 人の尊重 全ての人々の人権を尊重します。同時に従業員の多様性、個性、人格を尊重し、従業員とその家族が誇りを持てるような働きやすく、働きがいのある企業風土作りに努めます。</p>
<p>CSR vision 5 公明正大な企業運営 常に高い倫理観に基づいて公正な事業を営み、透明性と安定性を高めるよう努めます。</p>

国際的規範との対応	
ISO26000 中核課題	国連グローバル・コンパクト
消費者(顧客) 課題	-
環境	原則7: 環境問題の予防的アプローチ 原則8: 環境に対する責任の イニシアティブ 原則9: 環境にやさしい技術の 開発と普及
コミュニティ 参画 および開発	-
人権 労働慣行	原則1: 人権擁護の支持と尊重 原則2: 人権侵害への非加担 原則3: 組合結成と団体交渉権の実効化 原則4: 強制労働の排除 原則5: 児童労働の実効的な排除 原則6: 雇用と職業の差別撤廃
組織統治 公正な事業慣行	原則10: 強要・賄賂等の腐敗防止の 取り組み

2013年度の取り組みのポイント

「コンプライアンス強化策」を策定しました

千代田グループが国際社会で持続可能な事業展開を図り、企業価値を高めていくためには、社員一人一人が国内および海外関係国の法令を遵守し、千代田グループが定めた企業倫理に則り業務を遂行することが求められています。近年、パートナーをはじめとするグローバル社会からコンプライアンス面での要請が強化されている背景から、経営会議において「コンプライアンス強化策」を決定し、ここで定めた年次計画に沿って活動を行っています。(詳細はP17「CSR vision 5」をご参照ください)

活動方針	2013年度の活動	取り組みの 報告ページ
<ul style="list-style-type: none"> ● 質の高いエンジニアリングの提供によりお客様の満足を得る信頼性のあるプラントの提供 ● 協力会社など取引先とのCSR理念の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ● エネルギーの安定供給と地球温暖化ガス削減への取り組み ● エネルギー源の多様化への貢献 ● お客様の信頼に応えるプラント建設 	P5、6 P7(CST) P8(CTA) P11
<ul style="list-style-type: none"> ● 環境負荷の少ないエネルギー技術、環境保全技術の開発、提供 ● 環境保全に寄与する企業活動 	<ul style="list-style-type: none"> ● 低炭素社会(省エネ、CO₂の有効利用)に向けた研究開発の継続 ● 水素社会に向けた事業開発の推進 ● 再生可能エネルギーの普及、促進 ● 環境保全に配慮したプロジェクト遂行 ● 生物多様性の保全活動の実施 	P5、6 P7(L&TC) P8(CKS) P12、14
<ul style="list-style-type: none"> ● 事業を通じた社会への貢献活動の整備 ● 知力・労力の提供による社会貢献活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域社会の文化振興助成 ● 地域社会の経済発展、人材育成への貢献 ● 次世代教育のための教育機関との連携、協力 ● 東日本大震災復興への取り組み ● その他の大災害に対する支援 	P6 P7(CPh、AIC) P8(CTL、Chiyoda Almanac、CMSB) P13、14
<ul style="list-style-type: none"> ● 活力に溢れた組織風土づくりと人材育成の実現 ● 「安全はコアバリュー」の全関係者への浸透 	<ul style="list-style-type: none"> ● 働きやすい職場環境づくり ● 安全文化の確立と徹底 ● 人材育成制度の充実 ● 危機管理体制の確立 	P5、P7(CSL) P15、16
<ul style="list-style-type: none"> ● コンプライアンスの徹底と透明性ある企業活動 ● リスク対応の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ● コンプライアンス強化策策定/ グループコンプライアンス連絡会の設置 ● 継続的なコンプライアンス教育および監査の実施 ● 国連グローバル・コンパクトの周知 ● 安全保障貿易管理の周知徹底 ● 情報セキュリティの意識向上 	P17、18

私たちが行動する際の拠り所
千代田グループ行動規範
千代田グループ役職員行動の手引き

これらの理念・ビジョン・規範の詳細は当社Webサイトでもご覧いただけます。
<http://www.chiyoda-corp.com/company/policy/index.html>

エネルギー安定供給への取り組み

当社は創業以来、多くの石油国家備蓄プロジェクトに参画し、設計や施工に携わってきました。また、エネルギーと環境の調和を重点に掲げてクリーンエネルギーの導入に努めており、数多くのLNG(液化天然ガス)受入基地やLPG(液化石油ガス)受入基地の建設に携わり、多くの顧客の信頼を得てきました。

特にLNG受入基地については、日本発の受入基地として、1969年に東京瓦斯向けに根岸受入基地を建設したのをはじめ、袖ヶ浦基地(1973年)、扇島基地(1993年)等、これまで60件以上の建設実績があります。

LNGは、東日本大震災後、CO₂排出量の少ないクリーンエネルギーとして注目され、今後も需要はますます高くなると予想されています。当社は、高い設計施工能力を生かし、安全で高品質なLNG受入基地建設に取り組んでいきます。

近年の主な施工実績



	竣工	施工地	顧客	規模
1	建設中	茨城県(日立)	東京瓦斯(株)	LNG 23万kL LPG 5万kL
2	建設中	福岡県(ひびき灘)	ひびきエル・エヌ・ジー(株)	LNG 18万kL×2
3	2013	新潟県(直江津)	INPEX※1	LNG 18万kL×2
4	2013	愛媛県(波方)	JOGMEC※2	LPG 45万t
5	2013	新潟県(上越)	中部電力(株)	LNG 18万kL×3
6	2013	岡山県(倉敷)	JOGMEC※2	LPG 40万t
7	2013	岡山県(水島)	水島エルエヌジー(株)	LNG 16万kL

国際石油開発帝石株式会社(INPEX※1) 直江津LNG基地の竣工

2013年12月、INPEX初のLNG受入施設である「直江津LNG基地」が竣工しました。この基地のLNG年間取扱能力は約150万tであり、約500万世帯の年間消費量に相当する天然ガスを供給することができます。

当社は、本基地建設に計画の初期段階から携わっており、4年以上の歳月をかけて本基地の主要プラント設備の建設と試運転、性能確認運転を担当してきました。

独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC※2) 波方国家石油ガス備蓄基地の竣工

2013年3月、LPG国家備蓄体制整備の一翼を担う、波方国家石油ガス備蓄基地が竣工しました。本基地では、地下150~180mの岩盤に幅26m高さ30m長さ485m×2列、幅26m高さ30m長さ430m×1列の巨大なトンネル3列を設けて、地下水の圧力によってLPGを貯蔵する方式をとっており、45万tのLPGを貯蔵可能です。建設には10年以上がかかっており、当社は設備工事で大きな役割を担いました。



東京瓦斯(株)根岸受入基地(下図★)



直江津LNG基地



波方基地



地下内部

蒸留工程の50%以上の省エネ化が可能な無機分離膜を開発

化学産業は、産業部門においてもっともエネルギーを消費する産業です。なかでも分離・精製を目的とする蒸留工程では、化学プラント全体の約40%ものエネルギーが消費されます。この蒸留工程を省エネルギー化するために、当社も参画する新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)のプロジェクトで、無機物質でできた革新的なガス分離膜を開発しています。

今回のプロジェクトで新たに開発した無機分離膜を、水とイソプロピルアルコールの混合物からの水分離に用いる場合、従来の蒸留工程と組み合わせると、蒸留のみでの分離に比べて50%以上の省エネルギー化が可能となります。



JX日鉱日石エネルギー(株)川崎製造所に設置した試験装置

CO₂を原料として高効率で合成ガスを製造するプロセスの開発によりGSC奨励賞を受賞

グリーン・サステナブル ケミストリー ネットワーク(GSCN)によるGSC賞は、人と地球にやさしく、持続可能な社会の発展を支える化学および化学技術であるグリーン・サステナブル ケミストリー(GSC)の推進に貢献した業績に贈られるもので、その中でGSC奨励賞は将来的な貢献が期待できる業績に授与されます。受賞した技術は、天然ガスから合成ガスを製造するリフォーミング技術※に、新触媒を利用し、従来よりも高効率化したものです。炭素が触媒表面に析出すると触媒劣化の原因になりますが、この新触媒は炭素が触媒表面に析出しにくい優れた特性をもっています。その結果、エネルギー消費量削減によるCO₂排出量の低減だけでなく、設備負荷低減による装置の小型化(資源低減)も可能としています。



表彰式での記念撮影

※リフォーミング技術：炭化水素とスチームやCO₂を反応させて、H₂とCOの混合ガスからなる合成ガスを製造する技術

次世代型太陽熱発電デモンストレーション(実証)プラントが竣工

アルキメデ・ソーラー・エナジー社(イタリア)と共同で進めてきた次世代型太陽熱発電のデモンストレーションプラントがイタリアのマッサ・マルタナにて完成し、その竣工式が2013年7月3日に執り行われました。本式典にはイタリア・日本両政府関係者をはじめ世界中から500人以上が参列し、盛大なものになりました。

本プラントにて実証される技術のコンセプトは、イタリア政府系研究機関ENEAによって開発された新しいもので、それを実現するエンジニアリング技術を千代田グループが持つことを世界に示す絶好の機会となりました。



MSPT-CSP(Molten Salt Parabolic Trough - Concentrated Solar Power) Demonstration Plant

Voice マネージャーより



今回は上記3件が紹介されましたが、当社の技術開発は、既存のハイドロカーボン分野から再生可能エネルギーを含むノンハイドロカーボン分野まで、幅広く対象としています。

技術開発においても、会社の理念である「エネルギーと環境の調和」が理念であることに変わりありません。エンジニアリング会社として、世の中の新技術を敏感に取り入れながらも、当社の技術から軸足を離さないように技術開発に取り組んでいます。また、社会が必要としている技術の開発に、当社の技術力を通じて貢献していきたいと考えます。今後もお客様をはじめとして、全てのステークホルダーの皆様と共に、私たちは夢の実現に向けて取り組んでいく所存です。

技術開発ユニット GM 安井 誠

事業を通じた社会への貢献

フィリピン ハイエン台風義捐金

2013年11月8日にフィリピン中部を直撃した台風30号は、広範囲に壊滅的な被害をもたらしました。千代田グループは一刻も早い復興を願い、千代田フィリピン・コーポレーション(CPh)とも協力して総額約800万円を義捐金として拠出しました。

海外グループ会社も物資、義捐金などを個別に提供しました。例えば千代田シンガポール・プライベート・リミテッド(CSL)は、有志により直ちに寄付活動を行い、約3週間で42箱分の衣類、缶詰や保存食品を集め、地元運送業者の助けを得て送付しました。さらに16,300シンガポール・ドル(約133万円)をCPhを通じフィリピン赤十字社に送金しました。(P8にも掲載)



CSL社内掲示ポスター



フィリピン赤十字社宛送金小切手とCPh柳原社長(当時、右)

計装士会での講演

「計装士会」より千代田システムテクノロジーズの本会会員が講師として招聘され、勉強会の講師を務めました。計装士会とは1997年3月に計装士の知識の交換と友好を深め、計装技術の発展と社会的地位の向上に寄与することを目的として設立された団体です。

2013年度の勉強会は仙台、広島、高松の3カ所で行われ、『プラント計装工事における設計の現状と今後』をテーマとして、講師の体験を交えながら海外におけるプラント計装工事の実態と対策等について講演を行いました。参加者からは、興味深く新しい知見を得られたとの声をいただきました。



計装士会勉強会

日本フィル交響楽団コンサートに視覚障がい者の皆さんをご招待

前年度に引き続き、2013年12月26日に横浜みなとみらいホールにおいて開催された日本フィルハーモニー交響楽団のコンサートに、横浜市視覚障害者福祉協会の皆さん25組50名をご招待しました。

横浜市社会福祉協議会からは、当社の活動に対する感謝状をいただきました。贈呈式には、招待者を代表して横浜市視覚障害者福祉協会の理事が出席され、「大変迫力があり自分の中で映像が浮かび会場が狭く感じられた。目の見えない者には耳から楽しむ機会が大変貴重で嬉しく思います。是非継続していただけたら幸いです。」との言葉をいただきました。



感謝状贈呈式
横浜市社会福祉協議会 芳賀常務理事(左)
当社 木村常務(右)

障がい者地域作業所製品の社内販売会(ハートメイド販売会)を開催

横浜市社会福祉協議会に協力し、障がい者地域作業所で製作されたクッキー、ケーキ、プリン、雑貨の販売会を2013年3月より隔月で開催しています。当社グローバル本社のリフレッシュルームでの販売は毎回好評で、菓子類は30分ほどで売切れとなります。また、8月に開催された当社ファミリーデーの記念品として、ハートメイドのカatalog通販のお菓子を用意しました。売上は、製作者である障がい者の方々の支援に役立てられています。



ハートメイド販売会の様子

CSR vision 3 事業を通じた社会への貢献

森林再生の取り組み

東日本大震災復興支援活動の一環として、釜石市と大槌町において津波が引き起こした山火事の跡地への植樹作業や、間伐材の整備などに協力しています。

この地域は海岸近くまで急こう配の山地が迫り、山から流れ出る川には、天然記念物の「イトヨ」が生息し、秋には鮭が遡上する手つかずの自然環境でしたが、津波で川に瓦礫がたまり、生態系が危機的な状況に陥りました。民間ボランティア等の協力で瓦礫を撤去した後も、山火事による森林のダメージにより、そのまま放置すると急勾配の山地から土砂が川を通じて海に流れ出しかねない状況になっていました。

千代田グループでは、従業員によるボランティアを募り、地元で森林の整備を担っている釜石地方森林組合の指導を受けて、山火事跡地への植林や山林の間伐などを行いました。今後もこの地域の森林の再生と自然や生態系の保全につながるよう協力を続けていきます。



イトヨ



山火事でダメージを受けた山肌



急な斜面での作業

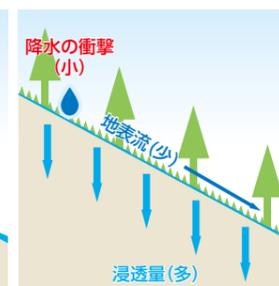


作業終了後に

間伐しない場合



間伐した場合



間伐を行わないと
下草が生えず
保水力が低下し
土砂災害を誘発する

2013年度に実施したその他の活動事例(国内グループ会社を含む)

大学教育への協力(講師派遣)	21名	食糧支援活動	TABLE FOR TWOに提供のべ1,693食
インターンシップ学生の研修	42名	被災地支援活動	73名
出前授業(インターンシップ以外の職場見学を含む)	202名	地域貢献活動	●NPOセカンドハーベスト ジャパンへの寄付 ●赤い羽根共同募金実施
地域清掃活動	のべ13名		

Voice ステークホルダーの声



千代田化工建設とは、2年前に経済団体による大槌町視察での意見交換がきっかけで、地元の旅行会社・岩手県北観光様と連携して現地活動のコーディネートをお願いしています。同社の活動の特徴は、参加者自身が受入団体との対話と学習を通じて地域や社会課題を深く理解して、実際の活動に高い問題意識と当事者意識を持って取り組んでいることです。釜石地方森林組合での活動では、現場でのチームワークや自発的な作業効率の改善、プラントエンジニアリング会社ならではの安全への高い意識などが受入団体に高く評価されていました。また、活動が一過性に終わることなく、終了後も参加者が個別にアクションを継続したり、受入団体の気づきと新しいアクションにつながっています。コーディネーターとしても地元の団体から「また来てほしい」と言われることは嬉しいかぎりです。

国立大学法人岩手大学 三陸復興推進機構
特任准教授 柴田 亮氏

人の尊重

海外事業に向けての「危機管理」の取り組み

近年、世界各国における治安情勢の変化は以前と比較にならないほど早く、当社に限らず日本企業にとって、進出国における治安情報の収集・分析と、その分析結果に基づくセキュリティ対策も含めたリスクマネジメントが重視されるようになってきました。しかし、日本におけるこうした取り組みは大きく欧米に遅れをとっています。

当社は、上記を受けて主に海外危険地でのリスクマネジメントを扱う専門部署として「危機管理ユニット」を2013年4月1日に設置、「人命第一」の基本理念のもと、主に右の業務を柱に活動を進めています。

特に重要なのが、進出国のリスク情報収集および分析とそれに基づいたセキュリティ対策です。テロ組織・犯罪組織の動向、各国における選挙情報、政治情勢情報等のリスク情報を、欧米のセキュリティコンサルタント、外務省、各国日本大使館、米國務省等から収集し、必要に応じて部署内で対策を検討し、実施しています。

2014年5月のタイにおけるクーデターの際には、現地赴任者からの情報、現地日本大使館からの情報、欧米のセキュリティコンサルタントからの情報を多角的に収集し、これらの情報について状況分析を行いました。分析結果に基づいて、渡航・移動制限など現地での具体的な留意事項を速やかに赴任者、出張者へ配信しました。このような対応に加え、特に危険地といわれる地域への赴任者、出張者に対しては海外赴任前研修を開催しています。

タイムリーにリスク情報収集・分析を行い、それを具体的な対策に結びつけていくことは非常に難しいことですが、危機管理ユニットでは外部の専門家を招き、いつでもアドバイスを受けられる体制をとっています。

これまでは、イラクなど特に危険地といわれる地域での工事現場に対して優先的に対策を行ってきましたが、今後は危険地の工事現場のみならず全世界の事業所に対する安全対策の見直し等、活動の幅を広げていく予定です。



危険地向け危機対応訓練の様子

危機管理ユニットの主な業務

- 危機管理意識の社内教育活動 (海外赴任前研修)
- リスク情報収集および分析
- 危機管理マニュアル整備/更新 (危機予防・対策マニュアル)
- 海外派遣状況および連絡網の把握
- 特定国リスクの事前調査、特定国への派遣是非の判断、特定国におけるリスク検証等
- その他危機管理全般に関する情報収集、関係機関との情報交換等

Voice アドバイザーの声



危機管理で重要なことは、「こんなことが起こるかもしれない」と最悪の事態を想定し、それに対する備えをすることです。しかし、日々の生活や業務の中で、「もしも」のことばかり考えている余裕は、ふつうはないはず。ですから、日頃から情報収集や分析を行い、緊急事態に対する体制整備を進める専門部署が必要になります。千代田化工建設でこの役割を担うのが危機管理ユニットで、私は2013年10月から同ユニットのお手伝いをさせていただいています。

日本人が危機管理の分野で欧米と比べて劣っている点があるとすれば、それは「自力で何とかしよう」というマインドだと思います。日本人は、この意識が著しく低いように思います。自分たちの安全は、お客さんやパートナー会社や政府が守ってくれるわけではなく、究極的には自分たちで確保しなくてはなりません。この意識を社内で根づかせることが、危機管理ユニットの最大のテーマとなるでしょう。

危機管理ユニット

国際政治アナリスト・国際ジャーナリスト 菅原 出

CSR vision 4 人の尊重

地域住民との一体感の醸成

千代田グループ社員と地域住民の方々との交流を目的に、2014年4月5日、みなとみらい21地区のイベント「さくらフェスタ2014」に「千代田神輿」が初めて参加しました。千代田グループ従業員やその家族、地域住民の方々と一緒に担ぐ千代田ブルーの神輿が、満開の桜並木に映えました。これを通じて、地域住民の方々との一体感を醸成することができました。



地域の方々と共に「千代田神輿」を担ぐ社員

安全文化の確立のための監督者教育

「労働安全衛生・品質・環境 (SQE) 基本方針」では、「あらゆる事故は防止できる」と宣言し、これを実現すべく、日々、建設現場における安全管理活動を展開しています。この活動を成功に結びつけるには、当社および一次協力会社の管理監督者の強いリーダーシップが不可欠であり、管理監督者の方々との安全文化に関する考え方を共有してもらい、「安全に対する関心」を高めてもらう必要があります。

2013年度は、トップマネジメントからの指示もあり、当社工事協会会員会社の担当者を対象としたBST社(米国の安全コンサルティング会社)による「リーダーシップ研修」を5回開催しました。さらに、当社の安全文化の醸成に必要な、マネジメント層のリーダーシップ強化と安全啓蒙のため、上級幹部社員を対象とした三菱総合研究所リサーチフェローによる「21世紀を勝ち抜く企業経営を安全の視点から整理する」と題した安全講演会を開催しました。



安全講演会で熱心に耳を傾ける幹部社員

C-SAFE Programの開発

安全管理プログラムとして新たにC-SAFE Programを独自に開発し、海外プロジェクトから順次、採用していく予定です。

このプログラムは、当社の過去の重大災害分析結果から、共通の事故原因を洗い出し、これらの防止対策に焦点を当て、最大限の効果を狙った安全プログラムです。行動科学に基づく安全管理が基本となって発展的に設計されているため、安全意識の向上や安全文化の強化に寄与しつつ、マネジメントシステムにおける有力な運用管理プログラムとしても位置づけられます。このプログラムの効果的な運用を通じて、マネジメントシステム自体の改善にもつながると期待しています。



C-SAFE Programキャンペーン用資料

国際女性デーを祝う

国際女性デーは、社会の変革を呼びかけ、国や地域社会の歴史において多大な貢献をした女性たちの勇気ある行動と決意を称える日です。

「男女平等が進んでいる国の方が経済成長率が高く、女性のリーダーが多い企業の方が業績がよい。」といわれています。エル・アンド・ティー千代田リミテッドは、女性従業員へ惜しみない愛情と尊敬の念を伝えるとともに、実績を重ねてリーダーの地位を目指す彼女たちを応援するため、2014年3月8日、国際女性デーを祝いました。



記念として女性従業員たちの写真を撮影

コンプライアンス体制整備と強化策の策定

近年、千代田グループの重要顧客、パートナーとの海外プロジェクト遂行において、コンプライアンス徹底をより重視する姿勢が顕著となっています。そこで、特に腐敗行為防止をはじめとするグローバルな対応を中心としたコンプライアンスに対する意識改革、推進体制の整備を目的として経営会議直轄のコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス強化を進めています。

また、グループ全体のコンプライアンス体制構築を目的とする「グループコンプライアンス連絡会」を設置し、国内外グループ各社でのコンプライアンス意識の向上を図っています。

継続的なコンプライアンス教育および監査の実施

外国公務員への贈賄、人権問題など、グローバルコンプライアンスリスクの高まりを受け、海外赴任者に対して、海外リスクに重点を置いた赴任前研修を実施しています。

また、独占禁止法（談合防止）、建設業法、下請法など、従来から重視している国内重要法令に対する遵守状況の定期監査も引き続き実施しています。

安全保障貿易管理の周知徹底

千代田グループでは、従来から外為法に則った内部規定を設け、安全保障に関連する違法輸出を回避する体制をとっています。安全保障貿易管理を周知徹底するために、継続的な研修や海外案件を扱う部署に社内監査を実施し、社内のすみずみまで意識が行き届くように努めています。

情報セキュリティ

世界各国の取引先企業の重要な情報資産を取り扱っているという認識から、全社員へ情報セキュリティの重要性の周知を継続して行っています。

2013年度より新たに認識されたリスクへの対応として、SNS等への不用意な書き込みにより会社の信頼を損なうような事態に陥ることを防止するために、新卒採用内定者に対してもSNSの利用上の留意点についての研修を実施しました。

また、管理職の情報セキュリティ意識向上を目的として、管理職を対象に「企業からの情報流出の現状」「不正発生のメカニズム」についてこの分野に詳しい弁護士による研修を実施しました。

Voice 顧問弁護士の声



多くの企業で内部通報窓口が設けられています。会社の不正行為が行政機関やマスコミの知るところになり、刑罰や制裁を受けたり、法令違反を犯した企業として社会的に糾弾されたりしたら、会社の社会的な信用は失墜してしまいます。そこで、内部通報窓口は、通報を通じて社内での不正行為や不適切な行為が行われるのを事前に予防したり、差し止めたりして、会社が被るダメージを最小限にしようという、いわばリスク管理の役目を果たしているのです。当社においては、社内的な通報窓口のほかに、社内の人には相談しにくい方や誰に相談してよいのか分からない方などのために外部相談窓口を設けられています。外部相談窓口はいわば中立な第三者として、個別通報事案に対応しています。

東京富士法律事務所 釘澤 知雄 弁護士



新入社員研修



国連グローバル・コンパクトセミナー



出張所長赴任前研修



海外赴任前研修

2013年度の研修実績／相談・通報制度利用実績

千代田化工建設が主催して、幅広く関連の役職員に研修を実施しています。

●コンプライアンス関連

出張所長赴任前研修	17カ所
海外赴任前研修	4回
みなし公務員に関する注意喚起 (国内プロジェクト幹部社員対象)	1回
ハラスメント講習会(幹部社員対象)	88名
国連グローバル・コンパクトセミナー	126名
全社通達(注意喚起)	2回

●安全保障貿易管理関連

全社通達(輸出管理通達)	4回
安全保障貿易管理 一般研修	6回

●CSR総合研修

新入社員教育	113名
キャリア採用者研修	26名
●情報セキュリティ関連	
情報セキュリティー一般研修	355名
管理職研修	92名

●相談・通報制度の利用実績

職場環境の改善	5件
就業規則の遵守	1件
注意喚起の要望	0件
その他	1件

第三者意見

この数年、世界のエネルギー需給を取り巻く環境は、激変しています。いわゆるシェールガス革命とロシア周辺地域、中東地域における政治的不安定がその要因です。千代田化工建設グループにとっても、機敏な経営の舵取りが要請される時代といえるでしょう。安定したエネルギー資源の確保とその供給が、わが国の重要な社会課題である状況は、当面、継続すると考えられ、そうした課題解決に本業で邁進する企業姿勢こそが、社会からの期待にほかなりません。

特集で紹介されている2プロジェクトは、ともに企業と社会の共有価値を創造しようとするものとして評価したいと思います。このほか直近でも、米国、カナダなどでのLNG関連施設建設への参画を発表されています。さらに、新興国のエネルギーインフラづくりを支援していく取り組みも、「攻めのCSR」として注目しております。

一方で、建設や保守に携わる業務が環境・社会側面の高リスク地域に立地することから生じる事業リスクもさらに大きくなっていくでしょう。この点、特集「パプアニューギニアLNGプロジェクト」で紹介しているように、個別案件の環境配慮、人権配慮は必須事項であり、今後もその取り組み内容と成果こそをより詳細に知りたいと考えます。「国内外グループ会社の活動紹介」や「事業を通じた社会への貢献」の記述では、いわゆる社会貢献活動や地域貢献活動としての事例が多く紹介されていますが、これに加えて「守りのCSR」の取り組みも案件ベースに開示いただくことを期待します。

今回、「人の尊重」、「公明正大な企業運営」についてはトップメッセージをはじめとして、人権尊重、腐敗防止を含むコンプライアンス強化・徹底の方針を明確にし、対応を紹介していますが、今後、これらの記述をさらに拡充されることを提案いたします。特に人権尊重については従業員以外の関係者への対応も明示することを期待します。

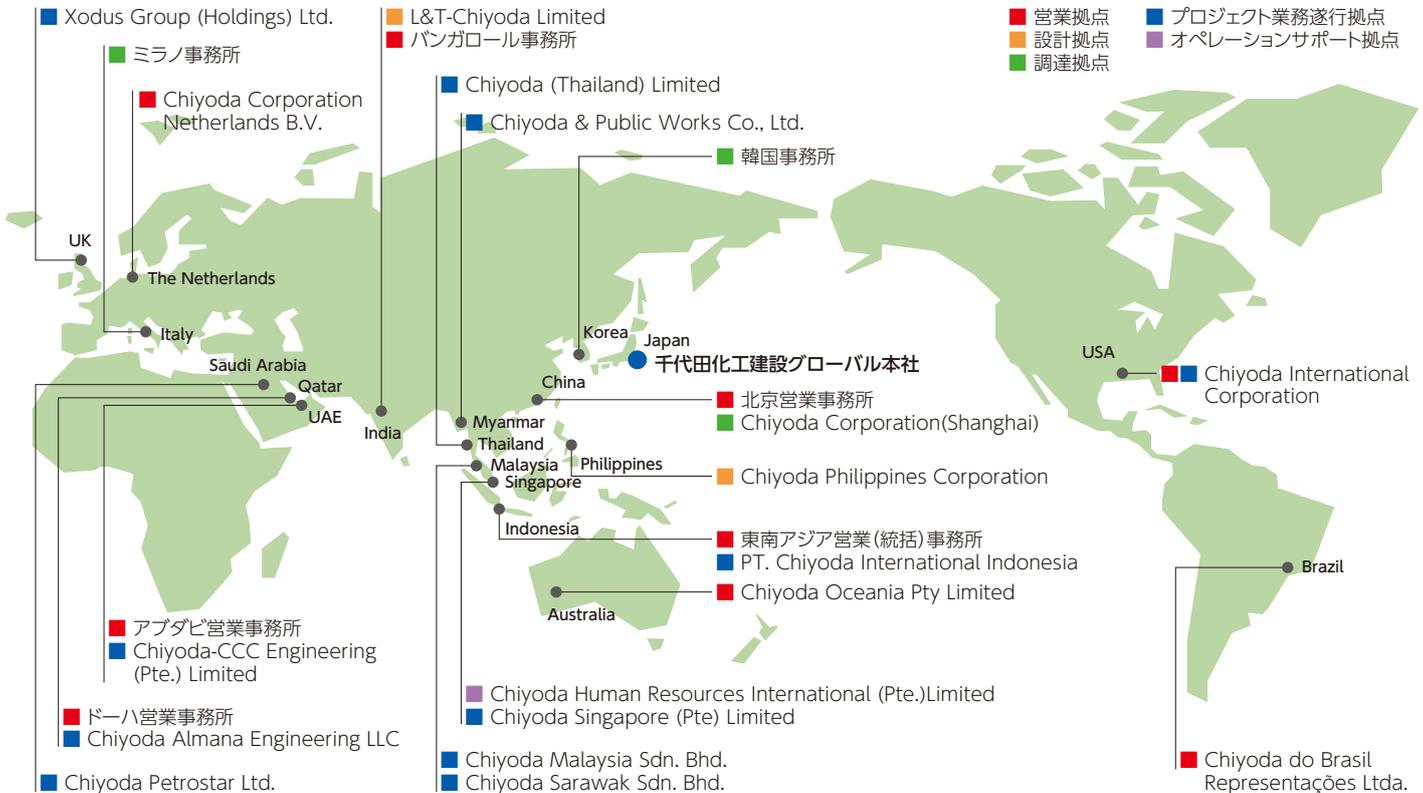
また、CSR報告書はコンパクトになり、網羅的な詳細情報はWebサイトに開示されることとありますが、上記のコメントをも踏まえて、各々の項目について、方針(Policy)、取り組み(Practice)、成果(Performance)を可能な限り対にして開示いただきたいと思います。



(株)日本総合研究所 理事
あだち えいちろう
足達 英一郎 氏

1986年一橋大学経済学部卒業。1990年株式会社日本総合研究所入社。経営戦略研究部、技術研究部を経て、現職。主に企業の社会的責任の観点からの産業調査、企業評価を手がける。ISO26000規格化作業部 日本国エキスパート(2005年3月～2009年5月)。主な共著書に「CSR経営とSRI」(2004年、きんざい)、「地球温暖化で伸びるビジネス」(2007年、東洋経済新報社)、「環境経営入門」(2009年、日本経済新聞出版社)など多数。

世界に広がる千代田のグローバルネットワーク (主要な海外拠点、2014年3月31日現在)



主要な国内グループ企業 (2014年3月31日現在)

 千代田工商株式会社

国内エネルギー・化学関連プラントの設計・建設・メンテナンス、損害・生命保険代理業

 千代田システムテクノロジー株式会社

電気・計装・制御の設計・調達・建設・保全、統合ITシステムのコンサルティング・開発・運用および社会インフラ設備に係る各種事業

 千代田テクノエース株式会社

医薬品工場をはじめとしたファインケミカル施設、各種研究施設などの企画から設計、調達、建設、試運転等

 アロー・ビジネス・コンサルティング株式会社

財務・会計・税務に関する総合コンサルティングおよび業務受託等

 千代田ユーテック株式会社

エネルギー・石油・石化および環境関連プラントならびに各種産業設備の事業化計画およびコンサルティング

 アロー・ヒューマンリソース株式会社

総合人材サービス、人材派遣業、職業紹介業、アウトソーシング事業、教育・研修事業

 アロヘッド・インターナショナル株式会社

旅行業、航空運送代理店業および、プラントの操業および保守に必要なスペアパーツ(機械・部品)等の販売ならびに輸出入



千代田化工建設株式会社 グローバル本社
〒220-8765 横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号
みなとみらいブランドセントラルタワー

本報告書に関するお問い合わせ先：
コンプライアンス・CSRユニット
TEL 045-225-7741 FAX 045-225-7224
E-mail csr@ykh.chiyoda.co.jp

